

Ⅲ. 協働で計画を推進するための事業について

1 「協働で計画を推進するための事業」(平成20年度)取り組み報告

緑区チャレンジ提案事業1 (地域福祉保健分野に係る活動)

所管課	地域振興課、福祉保健課、サービス課	
実施主体	自主活動団体	
関連目標	基本目標2、基本目標1	
20年度 実施内容	<p>①キッズオアシスひがぼん2 (19年度継続事業) ーキッズオアシスひがぼん2ー</p> <p>身近な地域での子育て支援の場づくりを目的に、東本郷小学校コミュニティスクールを会場として、平成19年9月から継続実施しています。2週に1回、子育て中のお母さんが気軽に参加し、地域のボランティアさんや地域での子育て支援者さんから、子育てのちょっとしたアドバイスをしてもらったり、講演等を行っています。</p>	 <p>キッズオアシスひがぼん2 (ベビーマッサージ)</p>
	<p>②介護予防体操の普及啓発 (19年度継続事業) ーいきいき体操 さくら草ー</p> <p>「介護予防」をテーマに区や地域ケアプラザ、スポーツセンターなどと連携して、誰でも気軽に楽しく体を動かせる体操や「はまちゃん体操」を地域に広げています。地域での出張健康教室などで体操指導をする一方、体操指導のスキルアップも続けながら、活動を続けています。</p>	 <p>いきいき体操 さくら草 (一の日体操 区役所入り口)</p>
	<p>③高齢者のためのボランティア募集と育成 (18年度継続事業) ー山下地域支え合いの会ー</p> <p>地域で高齢者の支え合い活動を行うことを目的としています。高齢者向けの生活ニーズに関するアンケート調査をおこない、求められている支援は何かを確認しながら、ボランティア講座を積み重ね、高齢者を地域で支える仕組みづくりを目指して活動しています。</p>	 <p>山下地区ボランティア講座 (施設見学)</p>
	<p>④「おはなしサンタ」がやってくる (18年度継続事業) ーおはなし「サンタ」ー</p> <p>地区センターや地域ケアプラザなどで、読み聞かせやパネルシアター・人形劇等様々な方法で子どもたちにお話し会を行っています。毎年テーマを決め、(平成20年は「なかま」)テーマに合わせたお話を、手作りの教材も取り入れながら子どもたちに伝えています。</p>	 <p>「おはなしサンタ」がやってくる</p>

20年度 実施内容	<p>⑤緑区中途障がい者連絡協議会 (20年度新規事業) -緑区中途障がい者連絡協議会-</p> <p>緑区内の中途障がい者及び中途障がい者団体の意思疎通をより活発にし、ネットワークを広げていくと共に、地域で生活している当事者としての立場から、思っていること、感じていることを発信し、誰もが住みやすい地域づくりを目指しています。</p>	 <p style="text-align: center;">緑区中途障がい者連絡協議会 (ソフトバレー)</p>
	<p>⑥長津田地区・町ぐるみ健康づくりで心ゆたかに (18年度継続事業) -長津田地区健康で心ゆたかに過ごすまちづくりの会-</p> <p>地域住民の福祉・健康の増進のため健康講座の実施やクリスマス会等の行事の実施を通じ、住民一人ひとりが心身共に元気に過ごすと共に、住んでいる地域にも関心を持ち、誰もが心ゆたかに生活できる安心・安全なまちづくりを目指しています。</p>	 <p style="text-align: center;">町ぐるみ健康づくりで心ゆたかに (転倒防止体操教室)</p>

障がいについての理解を深める「ハートバリアフリー事業」

所管課	福祉保健課、区社協	 <p style="text-align: center;">視覚障がいについて講義 白杖体験 (緑小学校)</p>
実施主体	緑ハートバリアフリー実行委員会	
関連目標	基本目標1、基本目標2	
20年度 実施内容	<p>緑ハートバリアフリー実行委員会は障がい者自身やその家族、ボランティアをメンバーとして平成18年に誕生しました。「障がいについての理解」を障がい者自身の立場に立って話すことで、「障がいがあってもなくてもみんな同じ」ということを伝えていく活動をしています。</p> <p>今年度は10か所の小・中学校で、視覚障がいについての講演やアイマスクを使用したの歩行体験(手引き誘導体験)、「街には色々な障がい者の方が生活していることに気づくこと」をテーマにした寸劇を取り入れた授業などを行いました。</p> <p>また12月には、緑区内で活動している団体やグループと、緑区長とが意見交換を行う懇談会「こもれびトーク」において、緑ハートバリアフリー実行委員会の活動やメンバーの思いについて意見交換を行いました。</p>	 <p style="text-align: center;">「色々な障がい者の方々が暮らしている」 寸劇 (霧が丘小学校)</p>

モデル地区を設定し、地域ボランティア相談室を運営します。

所管課	福祉保健課、区社協
実施主体	地区社協
関連目標	基本目標2、基本目標1
20年度 実施内容	<p>身近な“地域”でボランティアの相談ができるよう、「地域ボランティア相談室（地区ボランティアセンター）」の設置・運営をすすめています。現在、東本郷地区と霧が丘地区の2箇所に設置されています。</p> <p>今年度は、地区ボランティアセンター運営及び開設準備に取り組まれている団体を対象にボランティアコーディネーター勉強会を実施しました。</p>



ボランティアコーディネーター研修会

親子の居場所「はなまる」の運営を支援します。

所管課	サービス課、福祉保健課
実施主体	NPO法人 グリーンママ
関連目標	基本目標3、基本目標1
20年度 実施内容	<p>平成16年に緑区の区づくり事業で、親子がいつでも気軽に集まれる居場所としてオープン以降、子育ての支援を続けています。親子で遊ぶプログラムや保育士さんに気軽に聞ける子育て相談の他、お母さんのリラックスのためのプログラムも実施しています。</p> <p>現在は公募で決まったNPO法人「グリーンママ」が運営し、ボランティアスタッフと参加者が共に子育てについて考えながら企画・運営を続けています。</p>



みどりっこ親子の居場所 はなまる

緑区地域子育て支援拠点「いっぽ」の運営を支援します。

所管課	サービス課、福祉保健課
実施主体	NPO法人 グリーンママ
関連目標	基本目標3、基本目標1
20年度 実施内容	<p>緑区地域子育て支援拠点「いっぽ」は、NPOグリーンママが緑区から受託して運営しています。親子が集まる場づくりだけでなく、発達相談の実施や中学生の福祉体験の受け入れ、人材育成のための研修や子育て支援者のネットワークづくりなどにも取り組んでいます。</p> <p>また、「横浜子育てサポートシステム事務局」としての機能も担っています。</p>



緑区地域子育て支援拠点 いっぽ

人材バンク「みどり ひと・まちナビ」に福祉保健情報を掲載します。

所管課	福祉保健課
実施主体	福祉保健課
関連目標	基本目標4、基本目標1
20年度 実施内容	地域の福祉保健情報を幅広く掲載したHP「みどり ひと・まちナビ」を運営しています。100以上のボランティア活動団体などを地域別やキーワード別に検索できます。登録団体数を増やしていきながら、必要な情報がタイミングよく利用できるようにしていきます。



HP「みどり ひと・まちナビ」

地域ぐるみで認知症予防に取り組めます。

所管課	福祉保健課
実施主体	サービス課
関連目標	基本目標5、基本目標1
20年度 実施内容	高齢者を対象に、認知症は日常生活のちょっとした心がけ（運動や食べ物に気をつける、頭を使う生活）をすると、予防できることを学習しています。脳活き活き教室として料理創作コースと旅行企画コースを実施。町内会館などの身近な場所で開催することで、広く地域の中で普及・啓発していくことを目標にしています。



旅行企画コース 鎌倉旅行にて

高齢者・障がい者等の災害弱者にも安全なまちづくりに取り組めます。

所管課	総務課、福祉保健課
実施主体	連合自治会
関連目標	基本目標5、基本目標1
20年度 実施内容	緑区では災害発生直後にひとりで避難が難しく、救出、避難誘導が必要とされる方を『防災ささえあいカード』の配布・回収により、自治会をはじめとした地域の防災組織で把握する取り組みを実施しています。 平成19年度から2年間で14拠点に取り組んでいます。活動に取り組んでいる地域からは、日頃からの「近所付き合いの大切さ」を実感するきっかけになったという感想がある一方で、「カードを集めたが、どう活用するか」等の声が聞かれ、12月には防災ささえあいカード担当者説明会を実施し、先行実施地域の事例を聞くなど、カードの有効的な活用方法について検討が行われています。

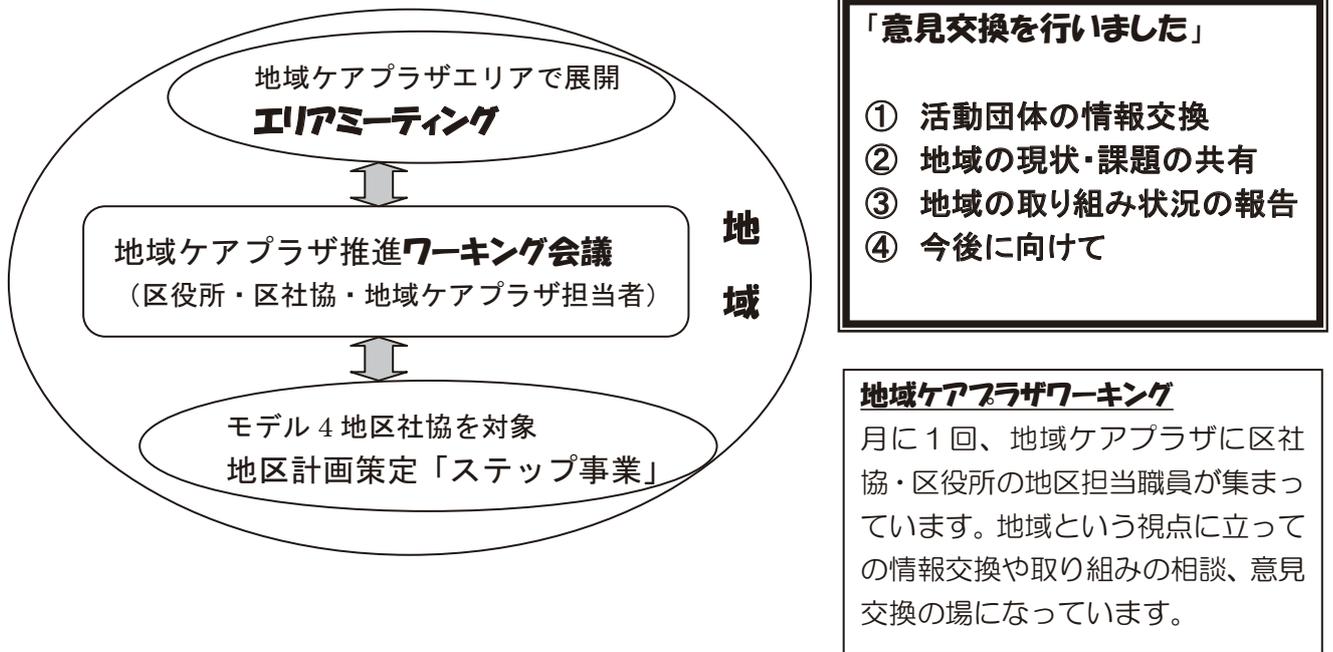


防災ささえあいカード担当者連絡会
(ハーモニーみどりにて)

2 「エリアミーティング」開催報告

地域福祉保健計画を小地域で考えていくための第一歩として、地域ケアプラザを単位に「エリアミーティング」を開催しました。

地域の中で、お互いが知り合い、顔が見える関係になること、「みどりのわ・ささえ愛プラン」の啓発を目的に、地区社協・自治会・福祉保健活動団体の方と意見交換を行いました。



1 東本郷地域ケアプラザ H20年11月11日(火)

地区社協会長をはじめ、みどりのわ・ささえ愛プランに意欲的に取り組んでいただいている方々に、地域ケアプラザワーキング会議へ参加していただき開催しました。

〈主な意見〉

【H20年度「地域での取り組み概況」への意見】

・地域の中でみどりのわ・ささえ愛プランの目標に向かって取り組んでいる項目がたくさんある事が確認できた

・学校との関わりも多く、15年20年と長く続いている活動も多い

・学校が2学期制になって、授業時間の関係で、地域との交流時間が減ってしまったのは残念

・ボランティアセンターは助け合いが必要な人に対して、提供できている

・第2団地は中学校区が他区とまたがっているので今後の交流が課題

・現在の計画は策定されただけで内容が具体化されていない、次の計画に向かうということは、具体的に何に取り組むかというアクションプランであると思う

・自治会・社協・ケアプラザも含め目標を作り、実行に移していくことが重要

・広い単位で話すのではなく、連合自治会単位で具体的に話し合っていないと実行できない。

2 十日市場地域ケアプラザ H20年10月6日(月)

新しいメンバーとなった「十日市場支え合い連絡会」の場で開催しました。

〈主な意見〉

【みどりのわ・ささえ愛プランについて】

- ・まだまだPRが不足しているのではないか。

【H20年度「地域での取り組み概況」への意見】

- ・掲載されていない自治会の取り組みがある。各地域から持ち寄り情報共有したい。
- ・自治会、地区社協、民生委員の相互で、活動内容を共有していない面もあり、限界があるのではないか。

【その他】

- ・新治西部は、お祭りなどの子どもの行事を通じて新旧住民が交流できている。
- ・後谷は防災マップを独自に作成。全戸調査で9割を超える回収率。
- ・ヒルタウンは市営と公団で情報共有が不足している。
- ・ヒルタウンは町ぐるみ事業で体操などを企画しているが参加者の数が多くない。



3 鴨居地域ケアプラザ H21年1月16日(金)

地区社協関係者と鴨居地域ケアプラザ利用団体に呼びかけて開催しました。

5グループに分かれ、2部構成で意見交換を行いました。緑区長もゲストとして参加！

(参加者) 地域役員(自治会・地区社協・民生児童委員など) 子育てグループ、地域ボランティアグループ、介護保険事業者、施設職員など

第1部

テーマ別に集まり活動紹介

- ・配食サービスは見守り活動につながっている
- ・ボランティアの高齢化、若い人に「〇日あいている？」と具体的に声かけをしている
- ・新しい人が老人会に入らない
- ・子どものグループで横のつながりを持ってスキルアップしていきたい
- ・子ども会を通して、地域を知ってもらうようにしている

第2部

活動地区別に分かれて「地域への期待」をテーマに意見交換

- ・高齢化、若い人が出て行ってしまった
- ・閉じこもりの人とつながるためにはどうしたらよいか
- ・まずは挨拶、できなくなったのはなぜか？
- ・地区社協とどうつながったらいいのかわからない
- ・元気なお年寄りが参加できる場所を知りたい
- ・地域福祉保健計画をじっくり読んだやる気になった



3 「地区計画策定ステップ事業」報告

地区計画策定ステップ事業 〈連合自治会単位・地区社協モデル地区で展開〉

わが街、わが地区ならではの福祉活動、課題や可能性を住民主体で見つめなおし、“地区別計画”策定を目指し事業等を通じてその基盤づくりと取り組みを進めます。

活動者とサポートを必要な方の代弁者・両方の顔を持つ地区社協が主体となり、地区ならではの福祉活動の課題や可能性を

①発見 → ②発信 → ③参画 → ④充実・達成 → ⑤再発見

のステップで検証、地区が一丸となって計画づくりに取り組める基盤づくりを行います。

《進め方の具体例》

- ① 地区現状分析表の作成
- ② 計画の担い手・受け手へのヒアリング調査
- ③ 地区課題の検討
- ④ 地区課題の住民への発表

地区計画の策定へ！

初年度のH20年度は、白山・山下・霧が丘・長津田の4地区社協がモデル地区となり、自治会や民生委員をはじめ、地域住民の理解と協力を得て、地区特性を活かした取り組みを行いました。

1 白山地区：「地区一丸で行動！解決！「白山ささえ愛プラン」」

①地区社協PR ②誰でも参加できるボランティア活動 ③地域団体の連携・財源確保

地区の各活動団体の啓発と一体での地域づくり、「白山ささえ愛プラン」の更なるステップアップを目指します。

主な内容 (申請時)	<ul style="list-style-type: none"> ●地区の各活動団体の啓発と一体での地域づくりを進めていく。 ●「白山ささえ愛プラン」を更にステップアップし「地区社協を知ってもらうPR」「誰でも参加できるボランティア活動」「地域で自主的に活動する団体同士の連携・財源確保」を進めるのに講演会やアンケート実施等も企画する。
具体的活動	<p>地区社協理事会で、合意と課題検討を毎月実施してきました。</p> <p>地区社協PRでは、地区社協広報紙を数年ぶりに発行、全戸配布しました。また“のぼり”を作成し、白山福祉まつりより使用し始めています。</p> <p>同まつり参加者アンケートでは住民が感じる地域課題を調べられるようにし、回答者には、地区社協ラベルを貼ったカイロを渡す工夫も行いました。</p>
今後の展開	<p>白山福祉まつりでのアンケート集計結果をふまえ、特に高齢者も足を運べるようプログラムを考えること、また「助けてほしいこと」アンケートも準備中です。</p> <p>事業の良い点、見直したい点を地区全体で、共有・検討してリニューアル・発展させるといふ、プランづくりの“ステップ”に期待が寄せられます。</p>

社会福祉大会プラン取り組み報告では、カラー刷り広報紙をご紹介しました。

①区役所・区社協等が協働で推進する事業

みどりのわ・ささえ愛プラン
地区計画策定・「ステップ事業」その3



①区役所・区社協等が協働で推進する事業

みどりのわ・ささえ愛プラン
地区計画策定・「ステップ事業」その4



2 山下地区：「住民視点の防災マップ！人のつながり再確認」

発災時には、身の安全確保と隣近所の声かけあいがかぎになります。水害に悩んだ時代もある地区だからこそ、防災対策の整備や、住民が顔見知りになって集まれる場や関係づくりに、まずは地区内の小モデル2地区で取り組みます。

<p>主な内容（申請時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●防災対策の整備と組織化を通じ、ささえあう地域づくりを地区内2単位自治会を小モデル地区に展開。 ●青砥町自治会・青砥団地自治会を小モデル地区に、防災対策の整備と組織化を通じて住民が顔見知りになって集まれる場や関係づくりに取り組む。併せて地区懇親会や防災データマップづくりも行っていく。
<p>具体的活動</p>	<p>地域防災拠点が高いとき、まず身を寄せられる地域ならではの近くの協スペース、社員寮や学生寮、寺社、福祉施設など近くに身を寄せられる協力施設と災害用井戸の調査を足で歩いて行いました。</p> <p>また“のぼり”を作成し、自治会、学生寮生らとの合同防災訓練にも参加しました。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>調査結果を山下地区全体図+自治会地区別での複数パターン作成できる形式のレイアウトでマップ化しました。</p> <p>この防災データマップの進捗報告と配布を進め、次には顔見知りになり、支えあう関係づくりを目指します。</p> <p>例えば、マップ配布を兼ねた地区懇談会の開催や、地区でのサロンの立ち上げ準備などを進めることを通じ、着実な“ステップ”に期待です</p>

社会福祉大会プラン取り組み報告では、防災マップとのぼりをご紹介しました。

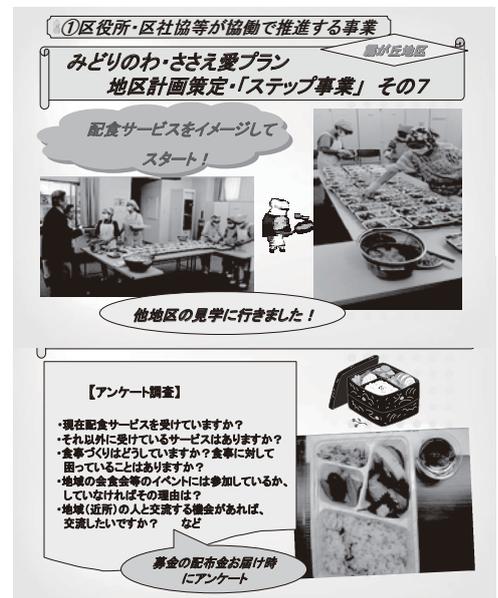


3 霧が丘地区：「生活支えるわが街サービス！食を通じて見守り活動」

住み慣れたわが地区、霧が丘ならではのささえ合い活動の充実に、まずは食べることを通じた在宅支援サービスにスポットを当てて取り組みます。

<p>主な内容（申請時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会・民児協、地域ボランティア等と協働して、霧が丘地区らしい在宅支援サービス提供を目標に、対象者への調査、検討・実施というステップを踏む。 ●高齢や障がい等で外出が難しい方への「配食サービス」「訪問理美容サービス」を中心に検討を進める。
<p>具体的活動</p>	<p>「配食サービス」より着手。区内区外問わず複数の先行活動のヒアリングに行き、効果と課題を直に確認しました。</p> <p>また利用する側の希望を聞き取るために、年末たすけあい募金の戸別配分金をお届けする際、アンケート調査を行いました。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>アンケートの集計を進めていく中で、自立した生活や、なにより地区社協会食会など地区内での集える場への参加が定着している様子が分かってきました。</p> <p>これから結果をふまえてどんなサービスを形づくるか、丁寧な“ステップ”に期待です。</p>

社会福祉大会プラン取り組み報告では、ヒアリング、アンケート調査をご紹介しました。



4 長津田地区：「次は子どもにスポットを！思いやりのある人が育つ地域づくり」

地域ぐるみの受け手と担い手のやりとりを大切に、より活発な福祉活動を行っていきこう！！という想いを胸に、高齢、障がい分野に続き、次は子どもへの支援に取り組みます。

<p>主な内容 (申請時)</p>	<p>●自治会・民児協と協働し、思いやりのある人を育てる地域づくりを、継続的な「子ども」への支援を中心に検討をしていく。</p> <p>●また、あらためて地域の支援を必要としている方々に対する福祉活動の充足度や、実際に当事者が必要としている福祉活動、またその担い手についてなど再検討し、地区計画策定の準備に取り組む。</p>
<p>具体的活動</p>	<p>実行委員会を立ち上げ、検討を重ねるなかで、地域と中学生の間の交流が手薄ということが見えてきました。イベントやパトロール、あいさつなどを介して交流を図り、「安心できるまちづくり」を目指しては、という意見があがり、田奈中学校生徒会役員や、同中学校福祉委員へのヒアリング調査を行いました。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>地域の活動に対する中学生の認知度の低さが明らかになった反面、戦争体験の話や昔体験等を介して交流を図りたいという希望も持っていること、また登下校時のパトロールを求めていることもわかりました。</p> <p>ヒアリングを継続して進めるか、具体的なスローガン、活動を決めていくのか、地区計画策定にむけての“ステップ”に期待です。</p>

社会福祉大会プラン取組み報告では、実行委員会と中学生とのヒアリング、交流についてご紹介しました。

①区役所・区社協等が協働で推進する事業

みどりのわ・ささえ愛プラン
地区計画策定・「ステップ事業」その9

長津田地区計画策定ステップ事業実行委員

たくさんの方が実行委員になってくださいました

実行委員長	長津田地区社協会長	山口 浩	副委員長	田奈中学校 校長	金子 清一
事務局	長津田地区社協事務局次長	中塚 康之	副委員長	田奈中学校 PTA会長	山下 博基
	長津田地区社協事務局次長	金井 芳		長津田小学校 校長	阿部 心さな
	長津田地区社協事務局次長	佐藤 英男		長津田小学校 PTA会長	杉崎 亞
会計	長津田地区社協会計部長	秋山 博昌		長津田第二小学校 校長	渡辺 辰徳
	長津田自治連合会福祉保健部長	大瀬 義博		長津田第二小学校 PTA会長	菅野 彰子
	主任児童委員	深谷 佳子		いぶき野小学校 校長	丸本 高樹
	主任児童委員	百武 真澄		いぶき野小学校 PTA会長	大内 隆
	主任児童委員	井上 典子		長津田地域ケアプラザ	杉崎 雅代
			事務局	長津田地区社協協議会	高橋 好朗

①区役所・区社協等が協働で推進する事業

みどりのわ・ささえ愛プラン
地区計画策定・「ステップ事業」その10

田奈中学校の福祉委員会が
地域ケアプラザのデイケアを訪問

終わってから
実行委員会メンバーとの意見交換

地区計画策定ステップ事業は、

住まう人皆が“計画が必要なんだ、計画をつくっていきこう”という土壌づくりを、段階(=ステップ)を踏んで地区社協を中心にすすめていきこうとする事業です。

私たちの日ごろの地域活動は価値あるもの。～もっとその意義や進捗状況を知ってもらいたい～

そしてせっかくなら達成目標と評価基準を持って、さまざまなグループや団体と一体的に活動しないともったいない。

そういった思いを目に見える形にして、地区計画を皆で考え実行していくためのステップとして、H21年度も地区社協を中心に取り組みます。

4 「オトナの一期一会」開催報告

～(続)みどり知っとこやっこフォーラム 地域団体“人材”交流会～ 「オトナの一期一会」について

地域には町内会などの地縁型組織と、子育てグループなどのテーマ型組織がそれぞれ活動しています。そこで緑区では、地域活動の活性化を目指して『新しい人材を呼び込む!』をテーマに、日々の活動のなかで互いに交流する機会づくりに取り組んできました。

昨年度に行った緑区初の試み「みどり知っとこやっこフォーラム」をふまえ、平成 20 年度は地域の福祉活動団体、市民活動団体の有志たちに企画段階から入っていただき、次のような活動に取り組んできました。

1. 「意見交換会」から「座談会」へ

<p>(1) 検討</p> <p>4月～7月</p>	<p>第2回開催に向けて企画準備段階から当事者団体との協働を検討。より深い関係につながる交流会を目指して、4月～7月まで議論を重ねました。</p>
<p>(2) 意見交換会</p> <p>第1回 7月29日 第2回 8月28日 第3回 9月24日 第4回 10月10日</p> 	<p>自治会や社協のような地縁型の団体だけでなく、趣味サークル活動などから活動につながっている目的型の活動団体からも出席していただき、基本に立ち返って「なぜ交流が必要なのか」「どのように交流すれば知り合えるのか」について時間をかけて話し合いました。</p> <p>【事務局提案】</p> <p>◎言葉の情報交換だけでなく、お互いが知り合うために、まずは 体験 し、何が必要かを 発信 してみてもどうだろうか</p> <p>◎事業名称「知っとこ」の意味が一見して分かりにくい声もあり …出会いを大切する「オトナの一期一会」として展開していく</p> <p>お互いが知り合うためには、まずそれぞれの活動に参加・体験して話を聞いてくる大切ではないかという意見が出され、そのための「ヒアリングシート」を作成しました。</p> <p>そして実際にヒアリングシートを使ってお互いの活動を体験して来ました。</p> <p>【体験ヒアリング】</p> <p>◎市民活動支援センター生涯学級部会 ⇒ みどり養護学校 ◎ボランティアみほ ⇒ 緑工房 ◎ワーカーズコレクティブくまさん ⇒ みどり養護学校・ボランティアみほ ◎緑区社協 ⇒ MICS(ミックス)・みどり市民活動交流会</p>
<p>(3) 座談会</p> <p>第1回 12月 8日 第2回 2月26日</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の会を知って欲しいし、他の会のことも聞きたい。 ・話しを聞くためには、顔見知りになることが必要。顔見知りになって、そこからつながりが生まれていく。 ・みんなが現状を知る、情報交換を温かい雰囲気のできる場。 ・福祉系活動と市民活動をつなぐ場。 <p>実際にヒアリングを行ってみてわかったことが多かったという感想や、「それぞれの団体を結びつける機会や場所の設定が必要」など、今後の課題が明らかになってきました</p> <p>→ 現状を知る、本音の情報交換ができる場として「一期一会」は必要</p>